

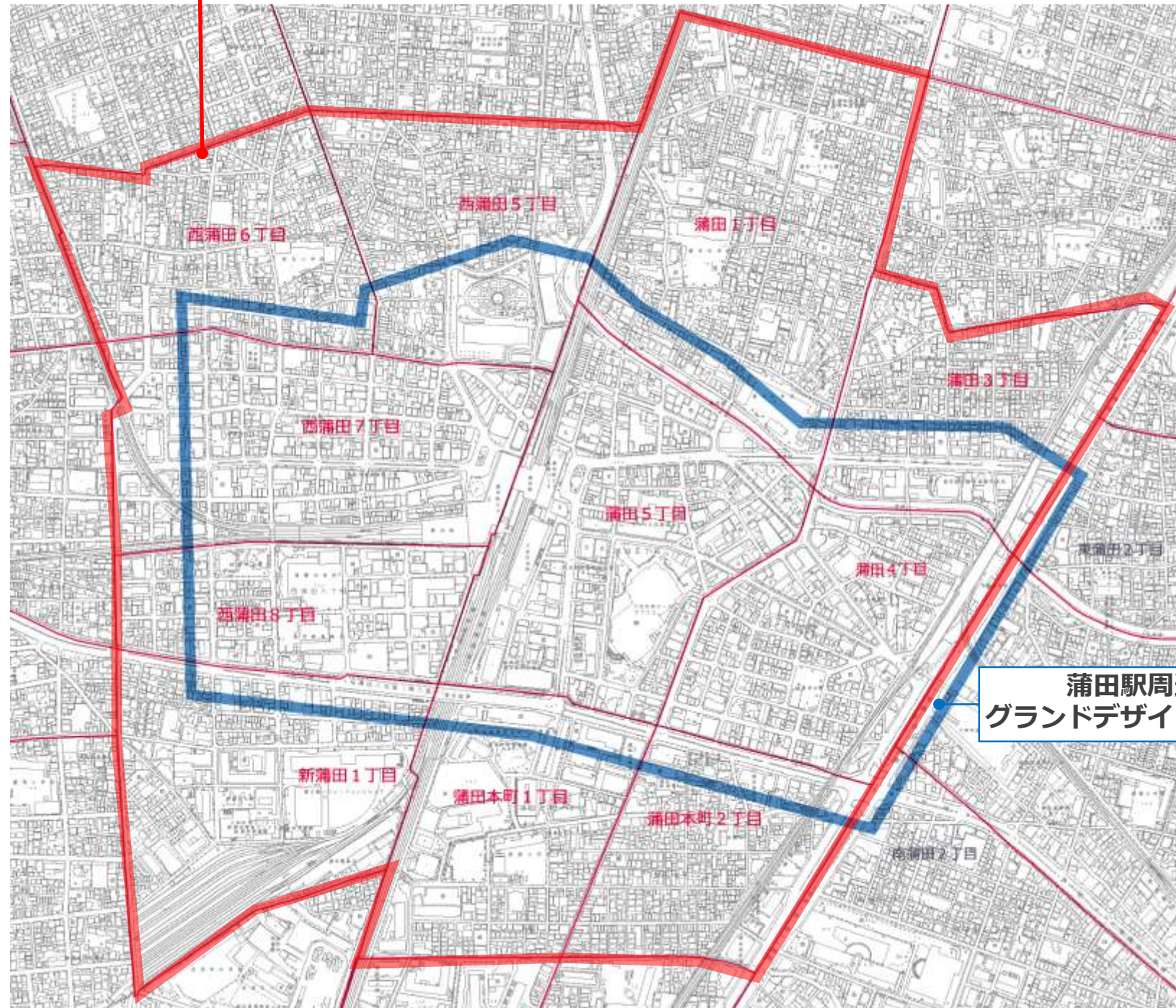
蒲田駅周辺のまちの変化に関する 基礎調査の結果報告

1

基礎調査の対象範囲

(1) 基礎調査の対象範囲について

基礎調査の対象範囲



蒲田駅周辺地区
グランドデザインの対象範囲

※蒲田駅周辺地区グランドデザイン（以降「GD」）の対象範囲の改定に向けた基礎調査は、蒲田1丁目、3丁目、4丁目、5丁目、蒲田本町1丁目、2丁目、西蒲田5丁目、6丁目、7丁目、8丁目、新蒲田1丁目を対象として、国の統計データや東京都の土地利用現況調査の結果等を用いて、現行GD以降の変化を整理する。

2

現グランドデザインが策定された2010年（平成22年）頃と比較した
蒲田駅周辺地区の変化

蒲田駅周辺地区の変化（サマリー）

現ランドデザインにおけるまちづくりの基本方針	まちづくりの基本方針に関連したまちの評価指標	まちの変化・現況分析	参照ページ
商業・にぎわい・交流の創出	①人口	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間人口（居住者）は増加している。特に若い単身世帯が増えている。 ・夜間人口（居住者）は、蒲田4丁目や蒲田本町1丁目の増加が著しい（10年間で1.4倍超）。 ・夜間人口（居住者）の約4割が大田区で働いているが、港区、品川区、千代田区や神奈川県で働く人も多い。 ・昼間人口（就業者・学生など）は横ばいである。昼夜間人口比率は減少傾向にある。 ・外国人の夜間人口（居住者）は増加している。 	P.5～8
		<ul style="list-style-type: none"> ・居住人口は増加し続けると推計されている（シナリオA） ・2030年ごろまで増加し、ピークに達した後、減少に転じると推計されている。（シナリオB） 	P.9
	②事業所数	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所数は、西蒲田8丁目（サンライズ等）は増加しているが、他地区は減少傾向にある。 	P.10～14
	③小売店舗数	<ul style="list-style-type: none"> ・従業者数は、蒲田駅（JR・東急）周辺では増加傾向にあり、その他地区は減少傾向にある。 	
	④小売業年間商品販売額	<ul style="list-style-type: none"> ・小売店舗の数および面積は年々減少傾向にある。 	
	⑤小売業売り場面積	<ul style="list-style-type: none"> ・小売店舗の年間販売額は、増加傾向にある。特に夜間人口（居住者）の増加が著しい蒲田4丁目や蒲田本町1丁目は、年間販売額の増加も顕著である。 	
	⑥土地利用現況	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所や工場が減少し、集合住宅が増加している。 	P.16
	⑦オフィス賃料	<ul style="list-style-type: none"> ・空室率は減少傾向にある。賃料水準は近隣の区に比べると低い。 	P.17
⑧ホテル立地状況 ⑨観光統計（観光庁）	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルが増加しており、その稼働率は高い。広域的には、羽田空港利用客向けのホテルの増加が顕著である。 ・外国人の宿泊者が増えている。 	P.18	
都市機能の向上	①鉄道乗降客数	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅（3路線）の鉄道利用者は年々増加傾向にある。 	P.19
まちの快適性確保	①緑の量	<ul style="list-style-type: none"> ・緑被率は減少傾向にある。 	P.21
	②放置自転車	<ul style="list-style-type: none"> ・放置自転車は減少傾向にある。 	P.21
	③犯罪件数	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺の自転車盗難は増加している。 	P.22
	④不燃化率	<ul style="list-style-type: none"> ・不燃化率は増加している。 	P.22

2 (1) 商業・にぎわい・交流の創出

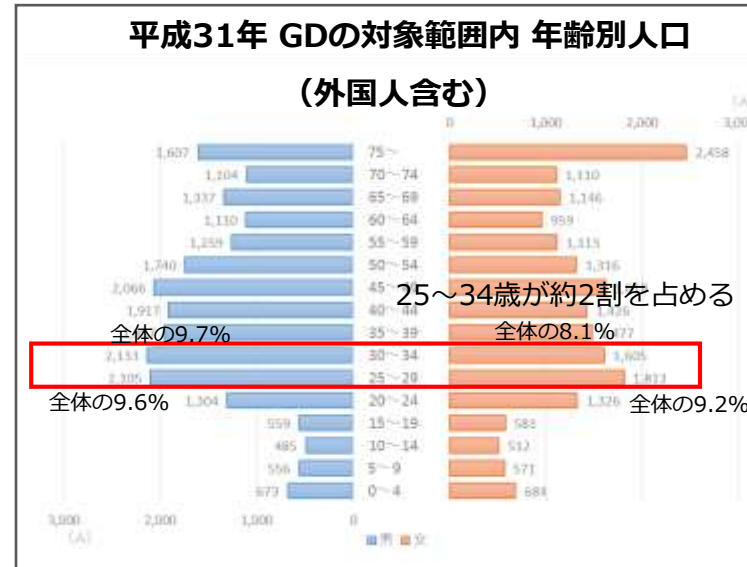
①人口

- ・区全体の人口は増加傾向にある中で、蒲田駅周辺の人口増加率は大きい。
- ・25歳～35歳の人口が多く、全体の約2割を占め、単身者の割合も約7割と多い。

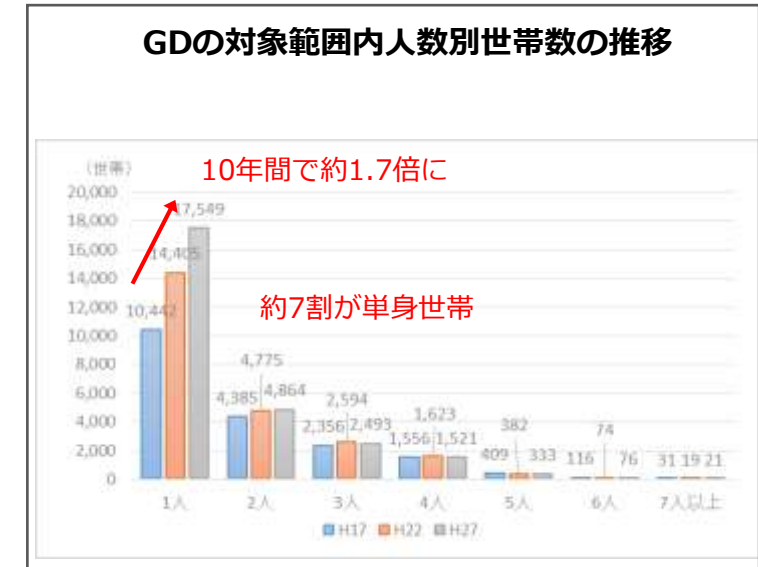


図 平成17年→平成27年 人口増減率

出典：各年国勢調査



出典：大田区住民基本台帳



出典：国勢調査



出典：東京都の統計



出典：大田区住民基本台帳

② 昼夜間人口

- ・蒲田駅周辺は昼夜間人口比率が大きく、通勤・通学で多くの人 coming いることが伺えるが、昼間人口は増えていない。
- ・昼夜間人口比率が減少傾向にある要因として、夜間人口増加であり、夜間人口が20%増加している。

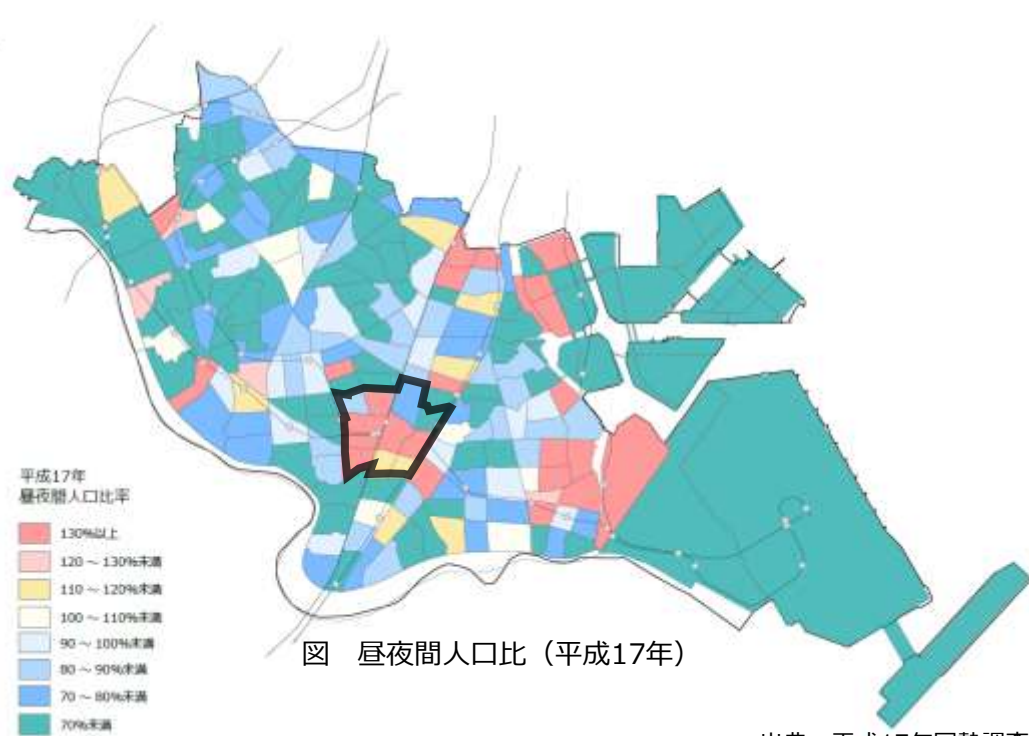
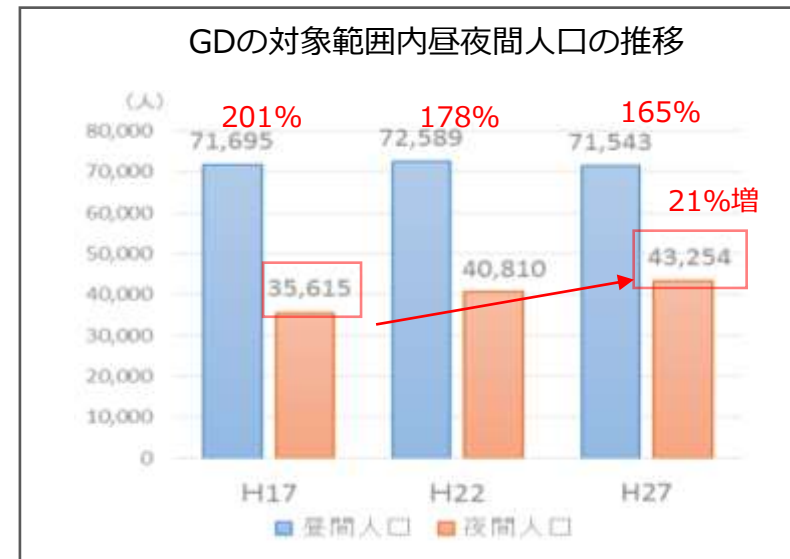


図 昼夜間人口比（平成17年）



出典：国勢調査

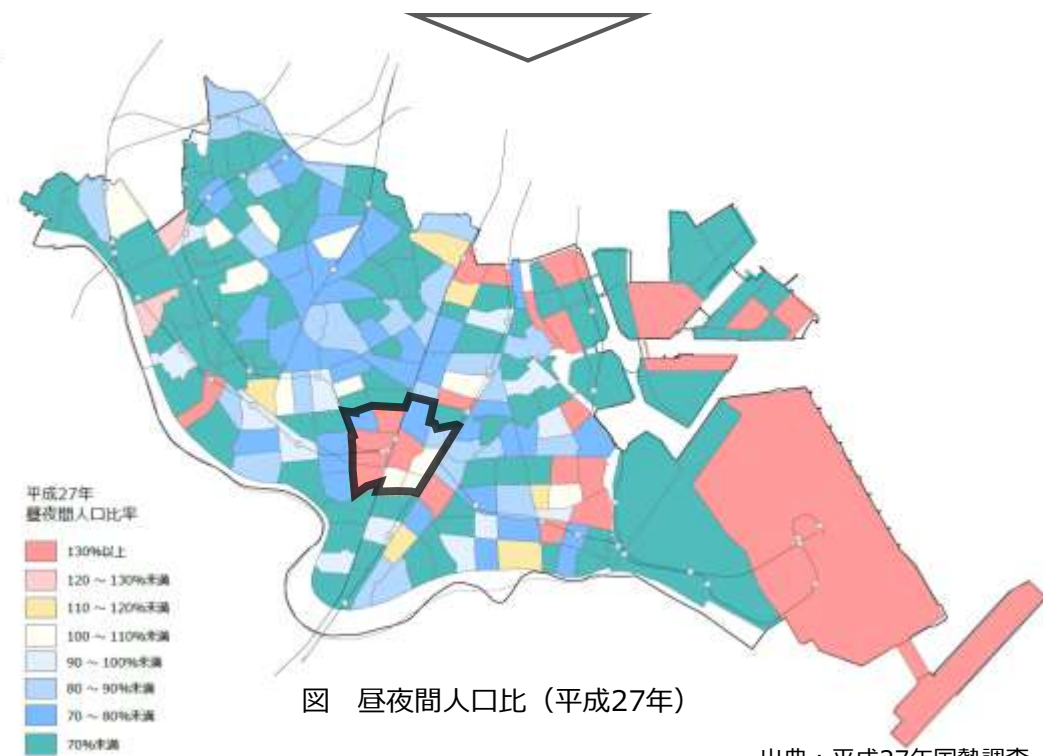
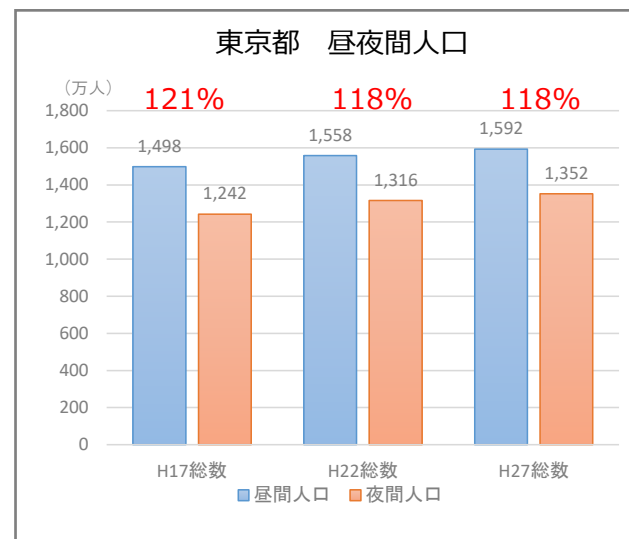
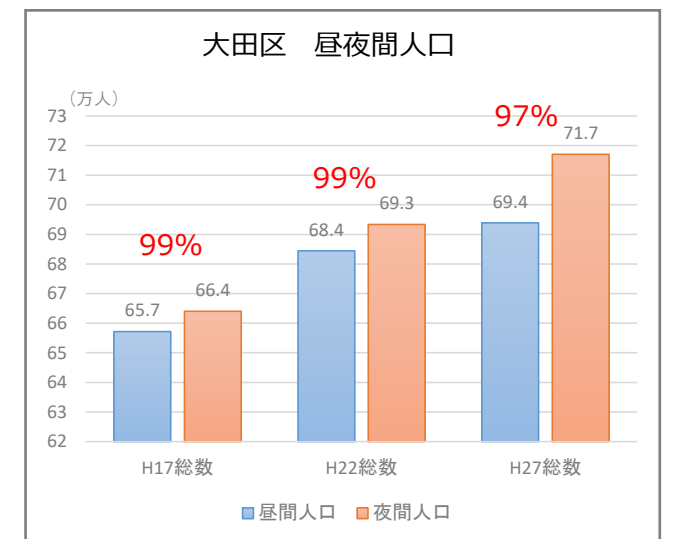


図 昼夜間人口比（平成27年）

出典：平成27年国勢調査



出典：国勢調査



出典：国勢調査

2 (1) 商業・にぎわい・交流の創出

③夜間人口・昼間人口

- ・ほとんどの町丁目において、夜間人口の増加率に対して、昼間人口が伸びていない。微増または減少傾向が目立つ。
- ・就業地については、約4割が大田区内であり、23区では、順に港区、品川区、千代田区が多く、神奈川県も多い。東海道線（東京、品川、川崎、横浜等）を利用した通勤が多いと推測される。

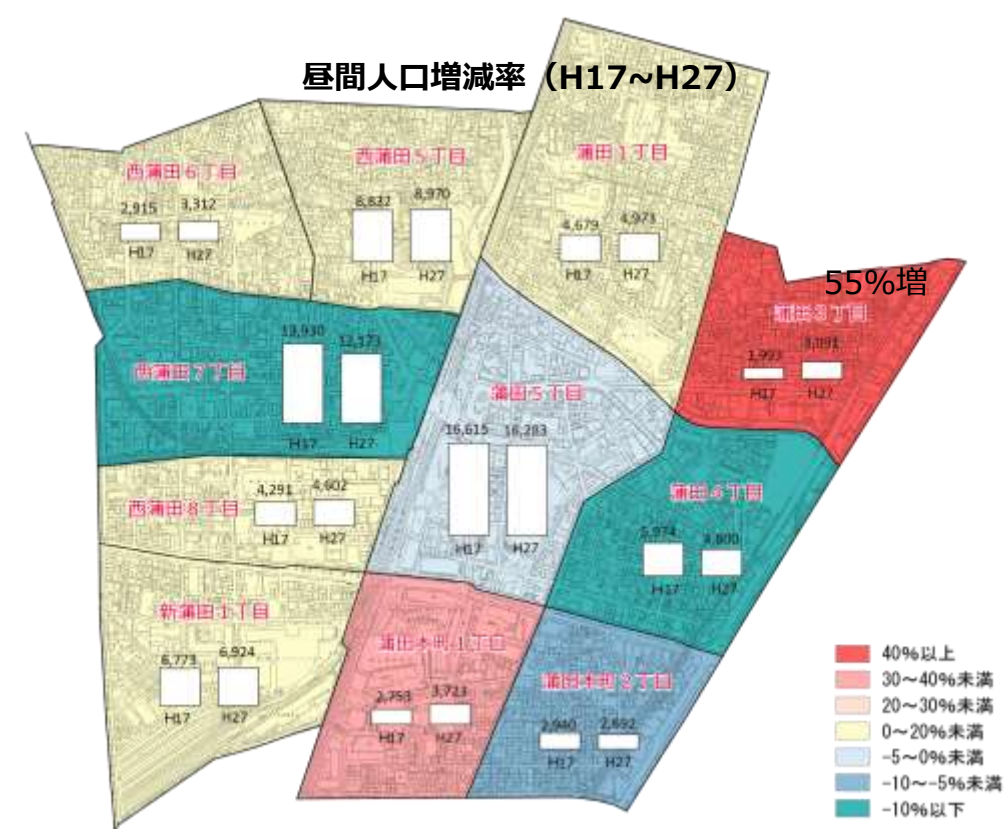
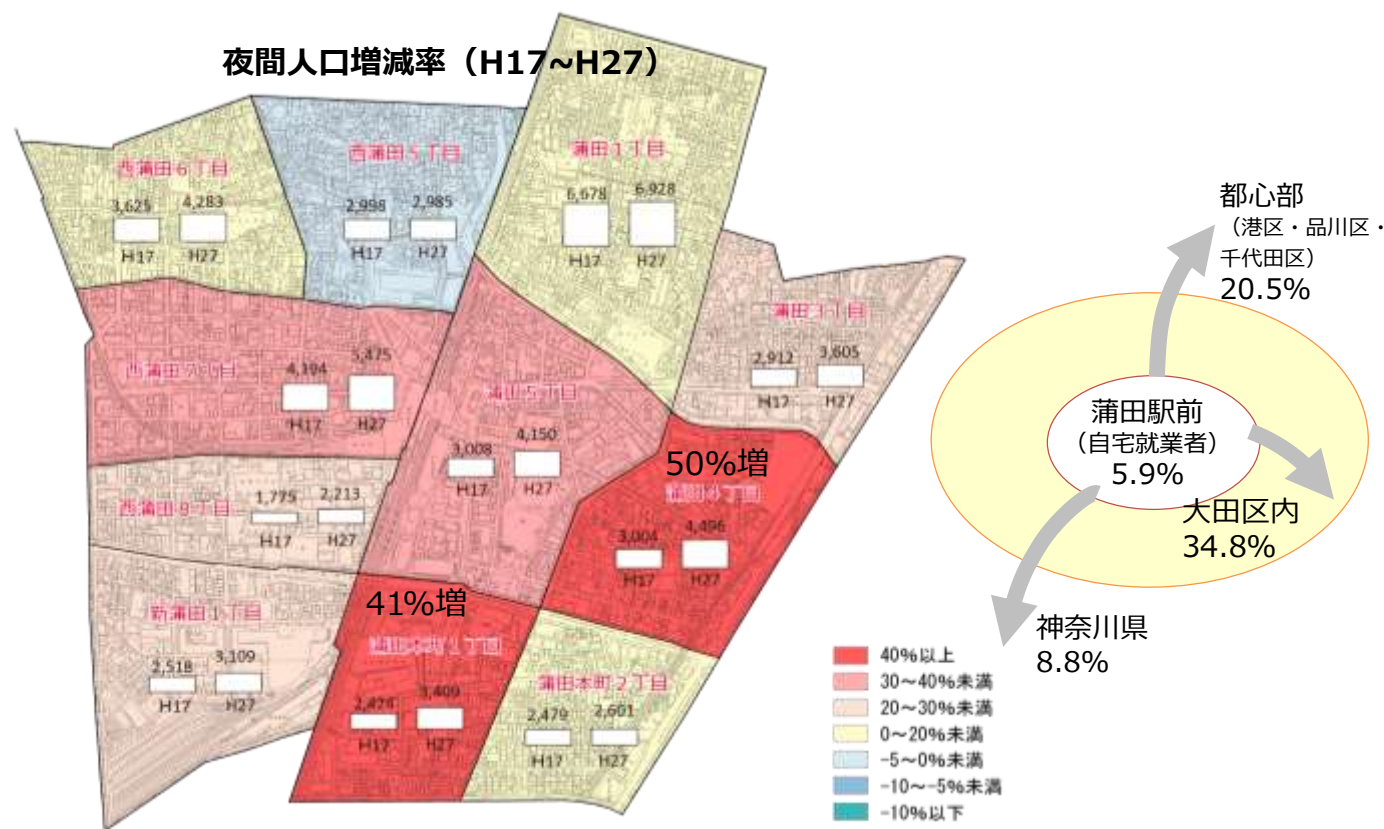


表 就業地・就学地別15歳以上従業者、全年齢通学者数

出典：国勢調査

地域		総数	自宅 就業者	23区内				市部	神奈川県	その他	主に仕事	通学者 (全年齢)	
				大田区	港区	品川区	千代田区						
西蒲田5丁目	H17	1,850	213	1,443	840	166	111	66	22	143	29	1,179	252
	H27	1,622	123	1,109	548	169	90	75	17	157	216	1,099	220
西蒲田6丁目	H17	2,187	193	1,767	1,060	190	131	85	15	175	37	1,436	333
	H27	2,328	149	1,580	772	236	146	104	20	209	370	1,662	298
西蒲田7丁目	H17	2,523	252	2,044	1,104	256	167	137	25	172	30	1,707	337
	H27	2,956	176	2,033	926	296	212	147	31	239	477	2,149	367
西蒲田8丁目	H17	1,100	107	883	517	100	70	33	8	86	16	744	121
	H27	1,125	51	759	366	137	72	53	7	107	201	859	110
蒲田1丁目	H17	4,086	301	3,383	1,964	366	317	159	40	312	50	2,775	583
	H27	3,639	234	2,573	1,341	313	245	158	36	305	491	2,561	445
蒲田3丁目	H17	1,725	153	1,373	774	134	124	74	19	153	27	1,153	247
	H27	2,036	126	1,488	753	204	116	90	18	174	230	1,462	248
蒲田4丁目	H17	1,842	218	1,437	810	174	114	80	15	141	31	1,172	271
	H27	2,547	144	1,732	840	288	136	120	15	212	444	1,995	215
蒲田5丁目	H17	1,819	186	1,447	892	129	119	68	18	145	23	1,234	219
	H27	2,162	117	1,410	700	213	128	101	16	208	411	1,630	228
蒲田本町1丁目	H17	1,567	74	1,320	716	139	108	63	15	139	19	1,107	204
	H27	1,970	79	1,478	785	153	122	82	13	175	225	1,352	330
蒲田本町2丁目	H17	1,471	122	1,205	777	109	91	39	20	94	30	1,020	202
	H27	1,427	96	1,012	572	118	85	46	8	120	191	1,013	174
新蒲田1丁目	H17	1,657	113	1,403	828	145	102	62	14	106	21	1,047	288
	H27	1,839	104	1,297	628	185	98	105	22	179	237	1,237	292
H27合計		23,651	1,399	16,471	8,231	2,312	1,450	1,081	203	2,085	3,493		
H27 全体の割合			5.9%	69.6%	34.8%	9.8%	6.1%	4.6%	0.9%	8.8%	14.8%		

出典：国勢調査

【考えられる主な要因】

○夜間人口

- ・土地利用状況（P16参照）を見ると、住宅施設に変わっている。特に蒲田4丁目については、顕著に表れている。

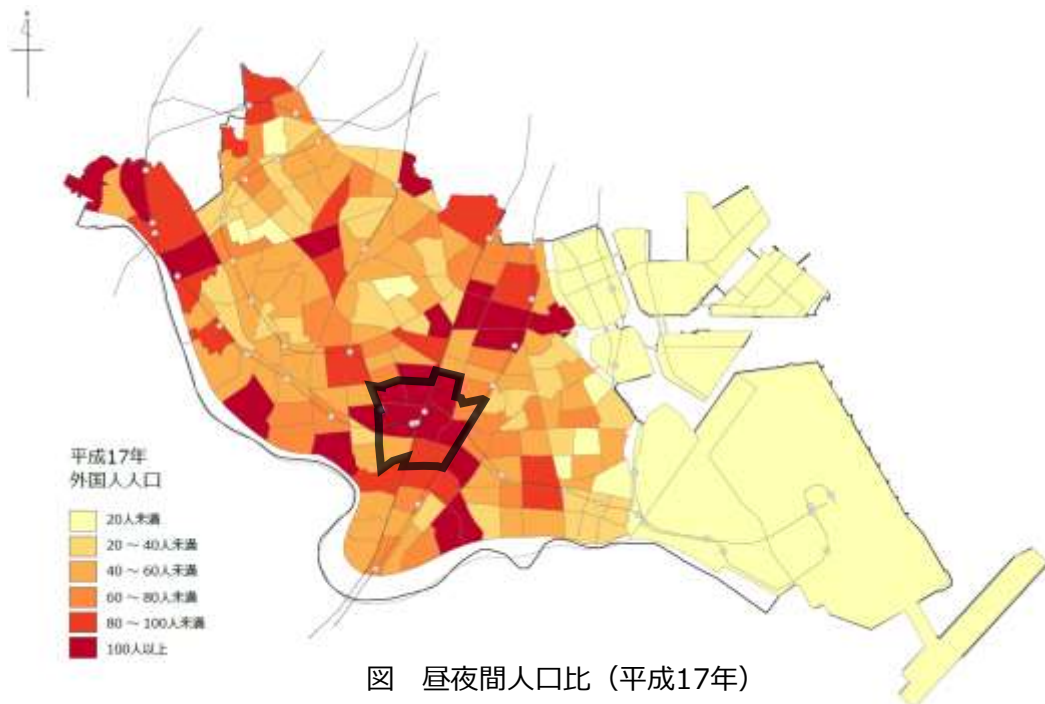
○昼間人口

- ・西蒲田5丁目は専門学校（H22年）が立地しており、平成28年には、再整備も完了し、教育環境のさらなる充実を図っている。
- ・蒲田5丁目にはアロマスクエアが立地し、多くの企業が入居。新たに専門学校（H28）も開校している。
- ・新蒲田1丁目は大手企業があり、多くの従業員が働いている。

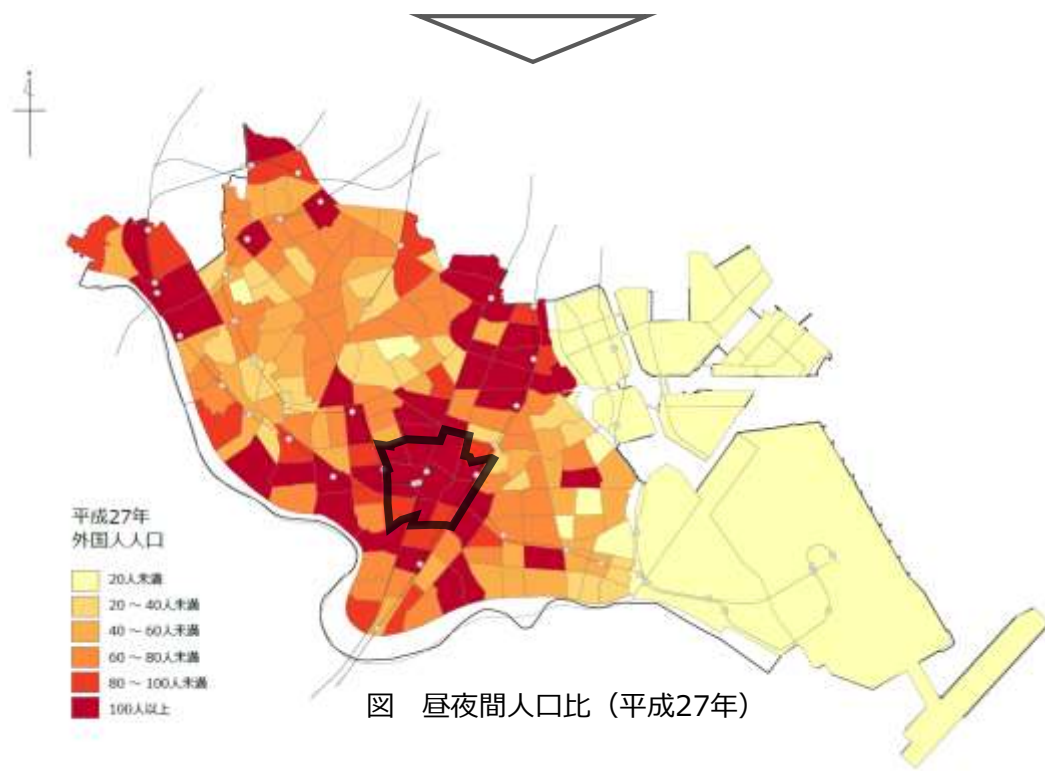
※23区内の就業先は、1.大田区 2. 港区 3. 品川区 H27の新蒲田1丁目のみ1. 大田区 2. 港区 3. 千代田区

④外国人人口

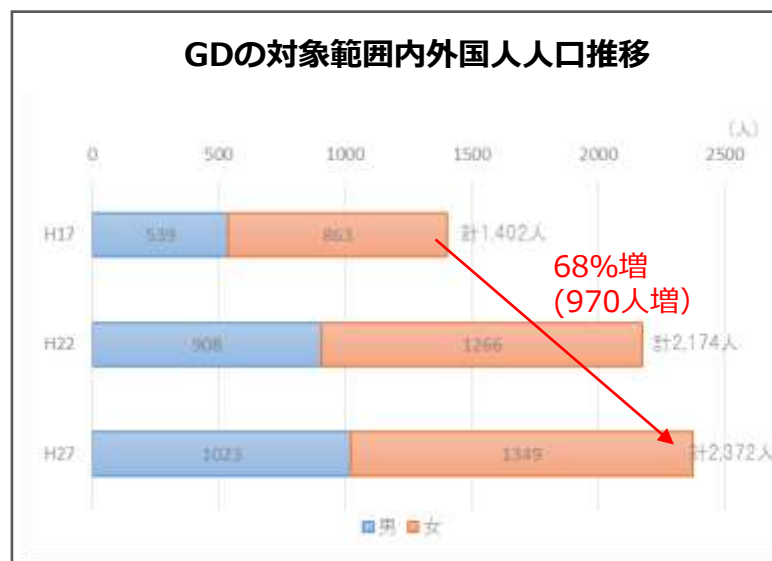
- 東京都、大田区と同様に外国人人口は増加傾向にあり、H17から約70%増えている。



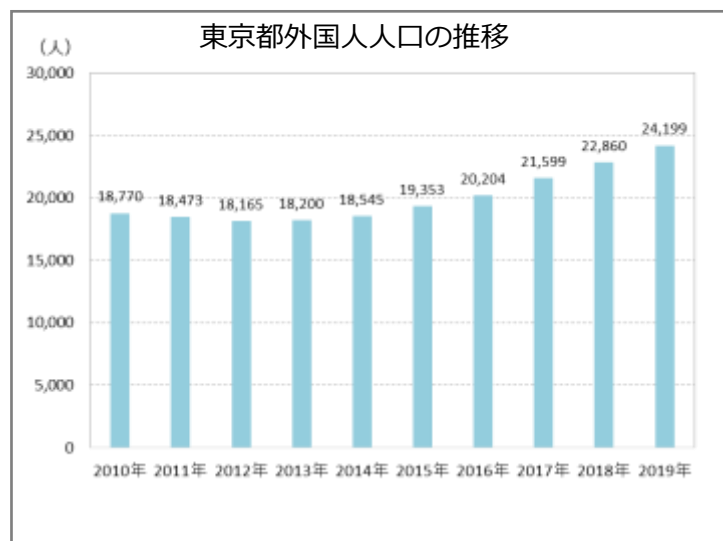
出典：平成17年国勢調査



出典：平成27年国勢調査



出典：国勢調査



出典：東京都の統計「外国人人口」

(平成24年7月までは外国人登録者数、平成24年10月からは住民基本台帳上の人口)



出典：国勢調査

2 (1) 商業・にぎわい・交流の創出

⑤ 将来人口推計

・「大田区人口ビジョン」(H28.3)では、大田区の人口は増加(シナリオA)すると推計され、高齢化が進む。

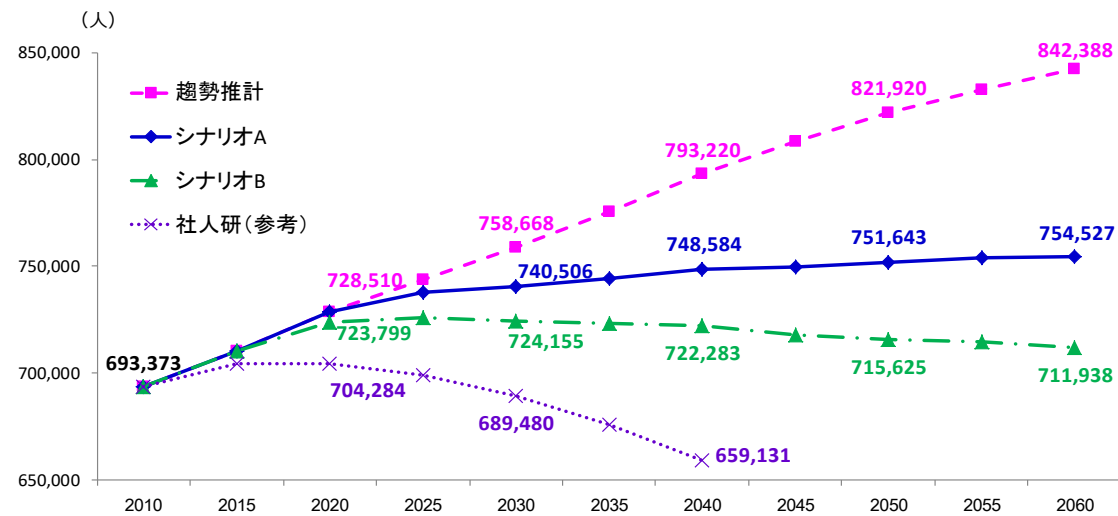


図 大田区の将来人口推計(総人口)

※基準となる2010年の値は4推計で同一(国勢調査の値)。また、2020年における「趨勢推計」と「シナリオA」の値は一致。

出典 大田区まち・ひと・しごと創生総合戦略 H28.3

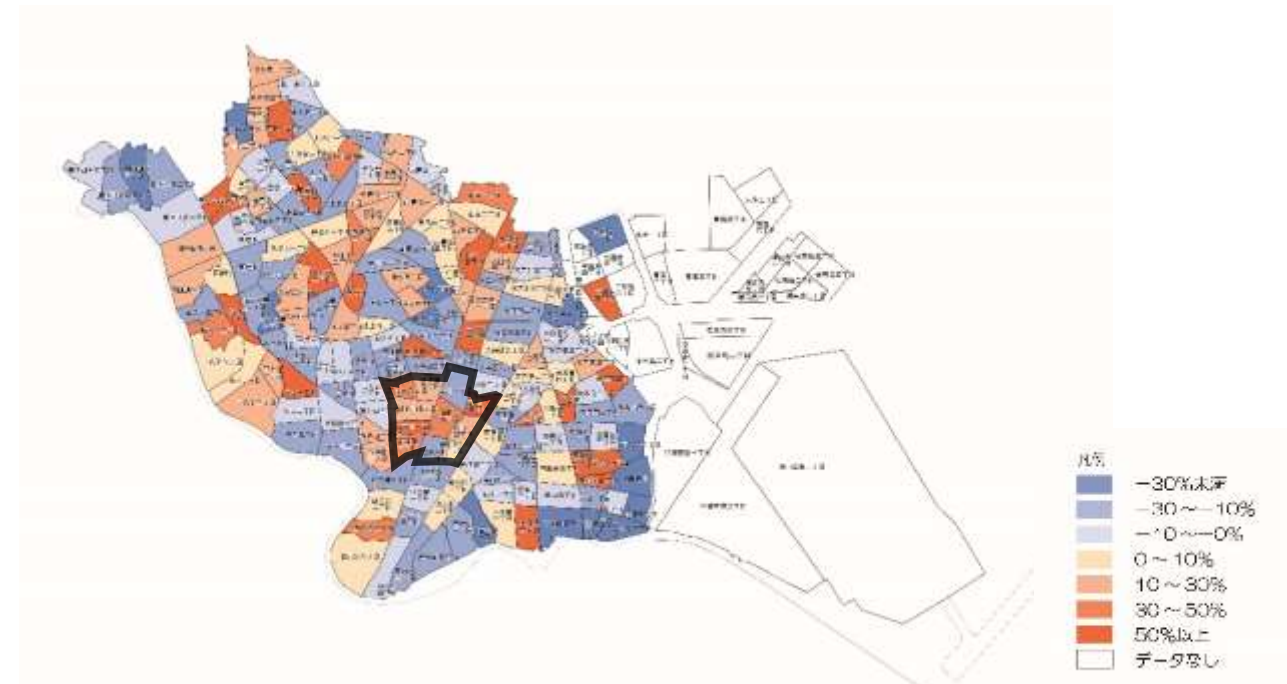


図 町丁目別人口増減率の推計(2015年から2040年)国総研予測ツールより

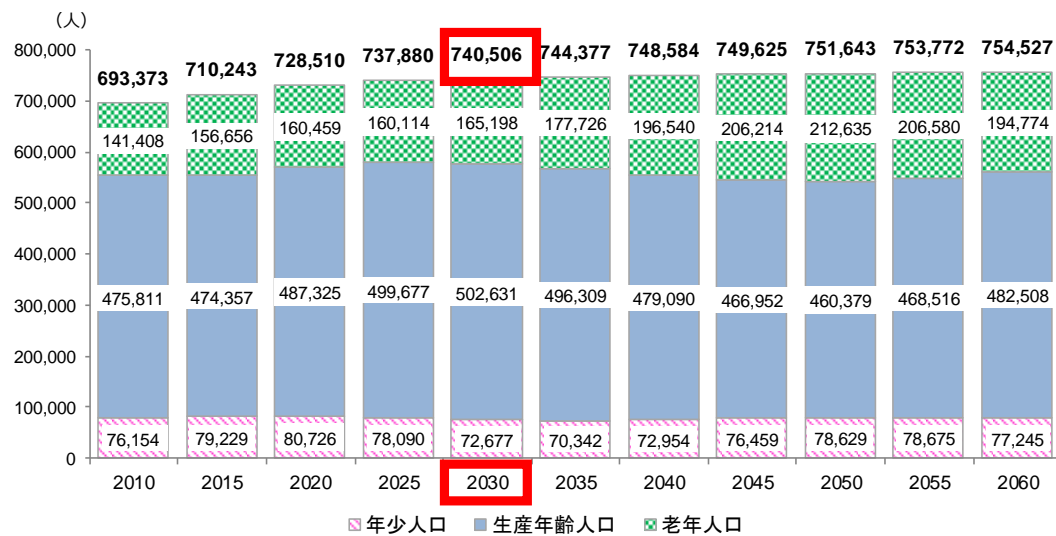


図 年齢3区分別人口の将来推計(実数)

出典 大田区人口ビジョン

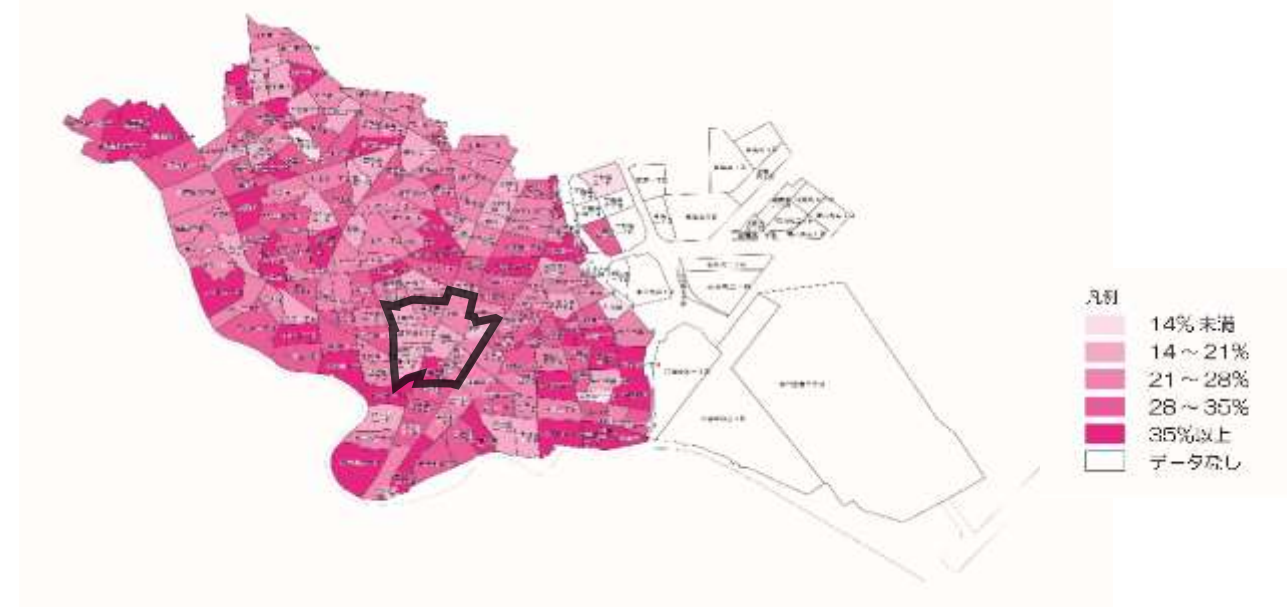


図 町丁目別高齢化率の推計(2040年)国総研予測ツールより

2 (1) 商業・にぎわい・交流の創出

⑥経済

- ・事業所数は年々減少傾向ある。
- ・情報通信や、運輸業等の事業者数は増加している。
- ・上記に挙げた事業所は、数は減少しているが、就業者が増加しており、事業が拡大していると考えられる。

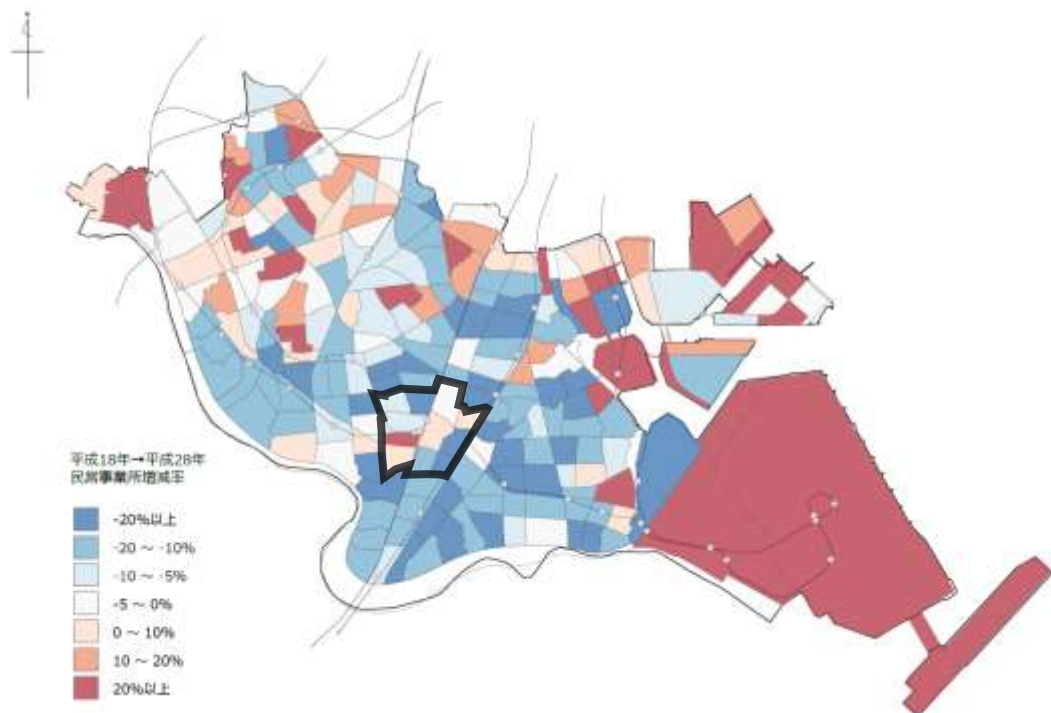
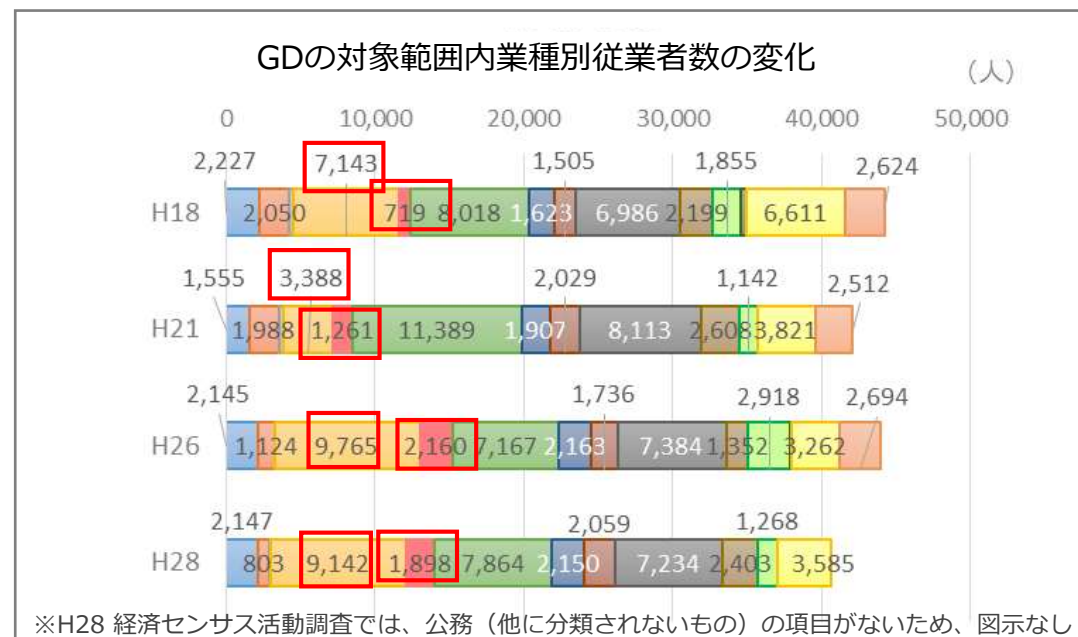
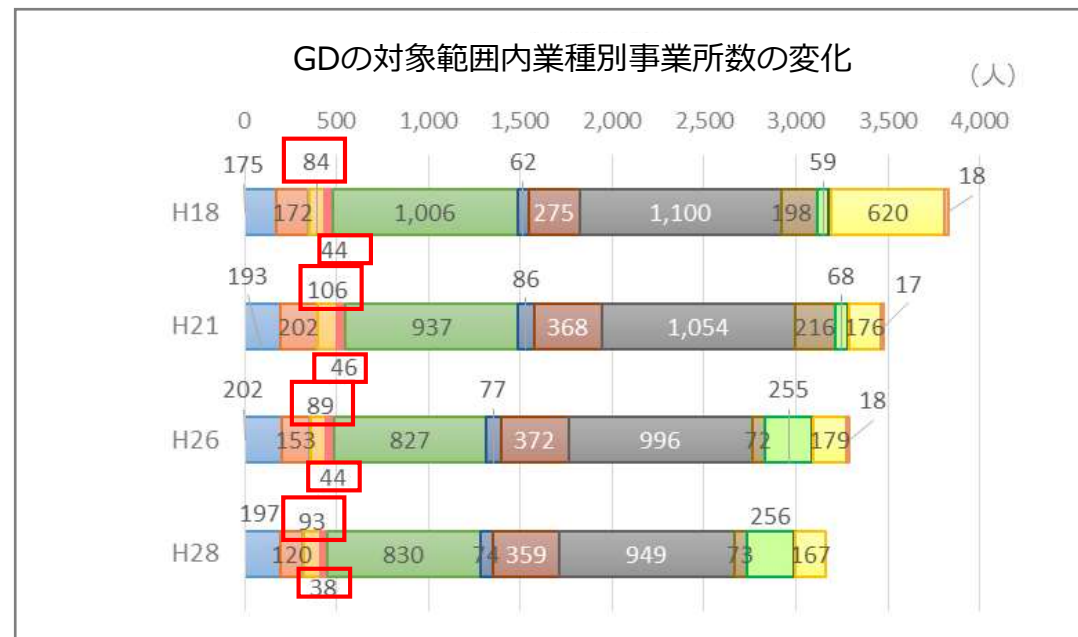


図 民間事業所数の増減率

出典 事業所・企業統計調査（平成18年）
経済センサス_活動調査（平成28年）



出典：平成18年 事業所・企業統計調査
平成21,26年 経済センサス基礎調査
平成28年 経済センサス活動調査

- 建設業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- 運輸業
- 金融・保険業
- 飲食店、宿泊業
- 教育、学習支援業
- サービス業(他に分類されないもの)
- 製造業
- 情報通信業
- 卸売・小売業
- 不動産業
- 医療、福祉
- 複合サービス事業
- 公務(他に分類されないもの)

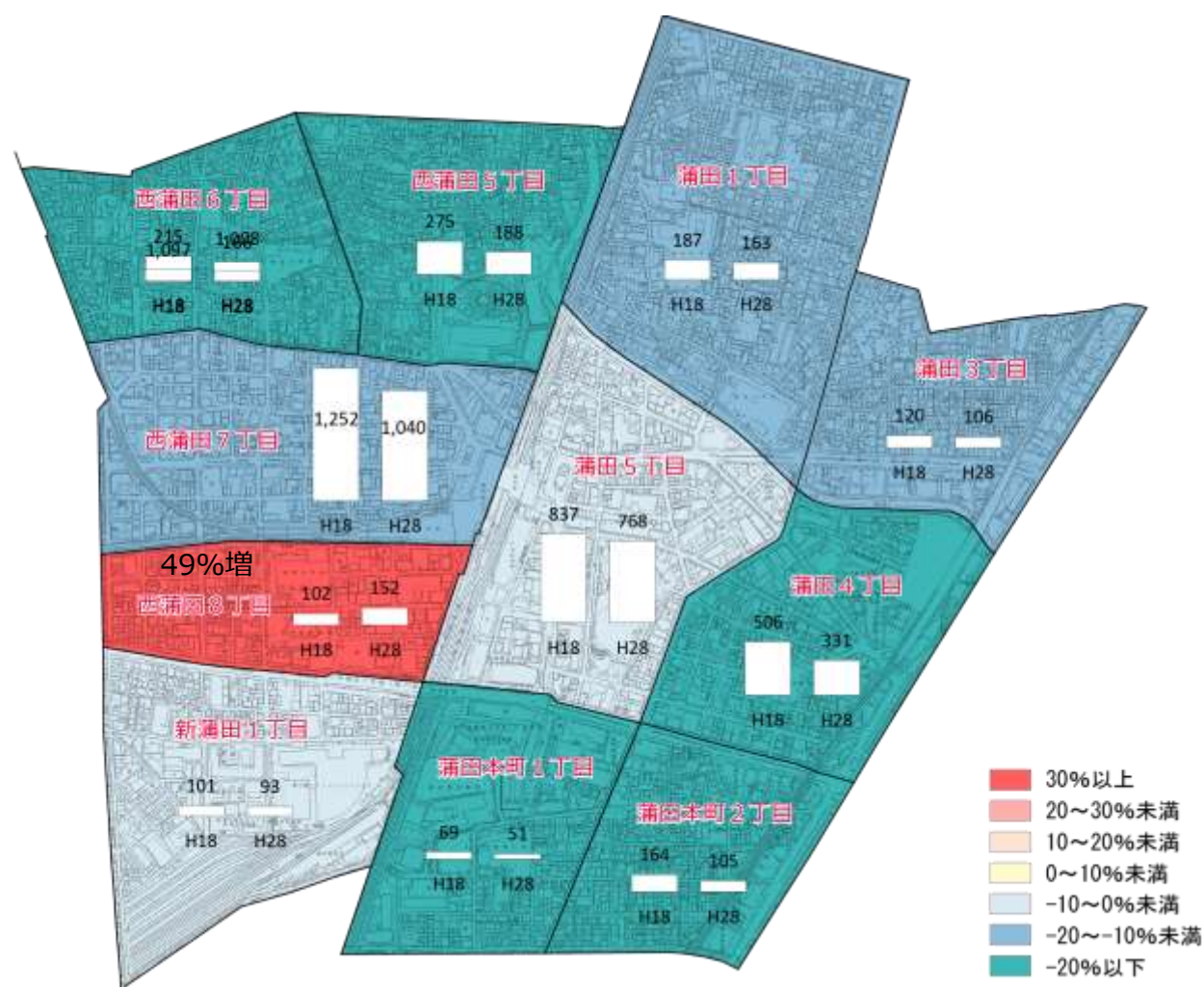
2 (1) 商業・にぎわい・交流の創出

⑦事業所数・事業者数

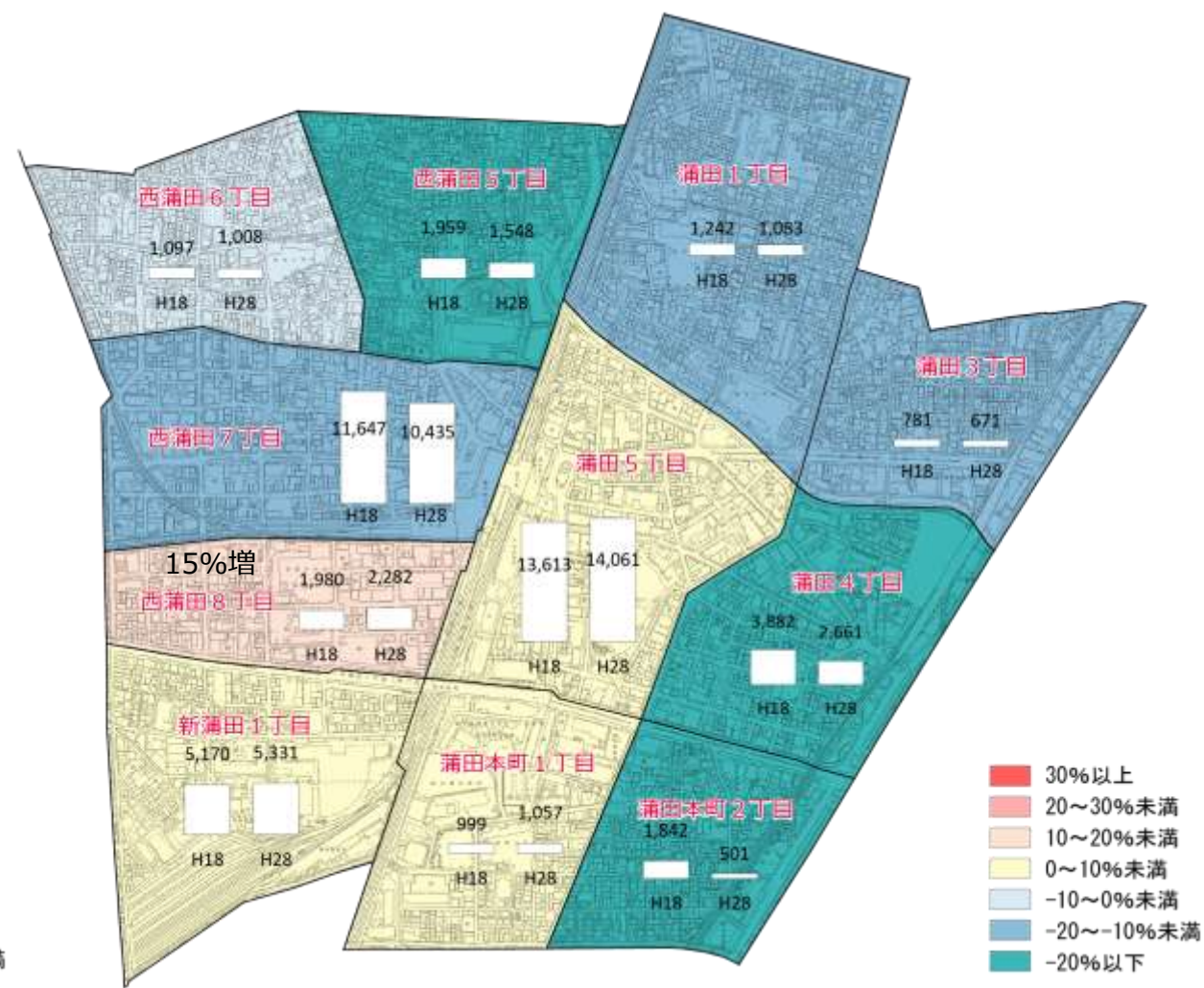
・事業所数は、西蒲田8丁目（サンライズ等）は増加しているが、その他地区は減少している。

・従業者数は、蒲田駅（JR・東急）周辺は増加傾向にあり、その他地区は減少傾向にある。

事業所数 (H18~H28)

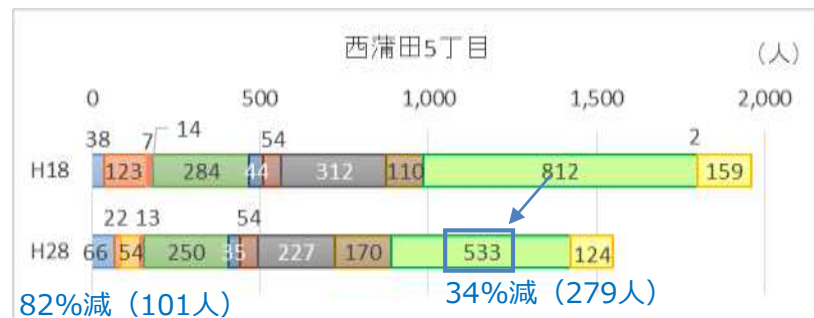


従業者数 (H18~H28)



2 (1) 商業・にぎわい・交流の創出

参考) 事業所数(上段)と事業者数(下段)



西口エリアでとくに事業所数、事業者数の減少が大きい。



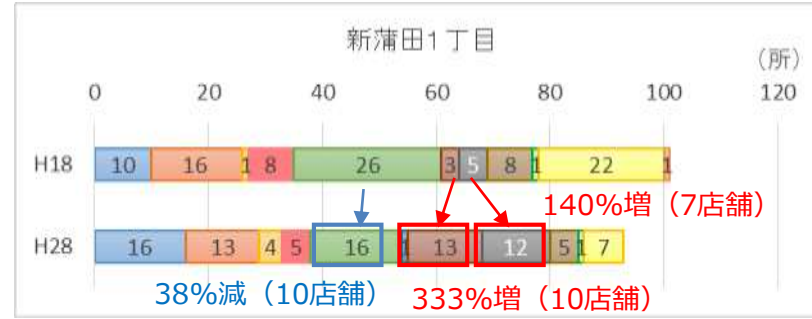
運送業は、事業所数の減少に対して、事業者の増加(95%増36人)しており、事業が拡大していることが伺える。卸売・小売業の減少が目立つ。



運送業は、事業所数の増加より事業者の増加(78%増224人)が著しく、事業が拡大していることが伺える。不動産業が伸びている(67%増39店舗)。蒲田駅周辺には、マンションが増えており、関係性があると推測される。



西側では唯一、事業者数も事業所も増加。多くの店舗が立地している。他地区で、飲食店・宿泊業の分野が軒並み減少傾向にある中で、増加している。



大手企業で約4,000人以上の雇用を生み出している。卸売・小売業の減少が目立つ一方で、他地区同様不動産業が伸びている。

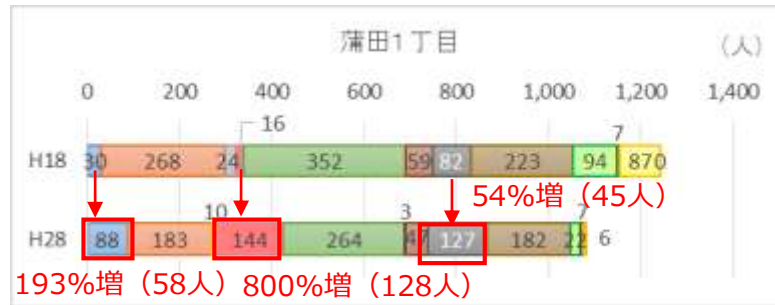


※H28 経済センサス活動調査では、公務(他に分類されないもの)の項目がないため、図示なし

出典: 平成18年 事業所・企業統計調査
平成21,26年 経済センサス基礎調査
平成28年 経済センサス活動調査

2 (1) 商業・にぎわい・交流の創出

参考) 事業所数(上段)と事業者数(下段)



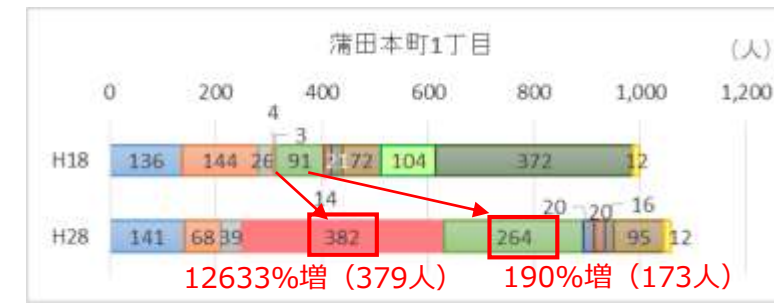
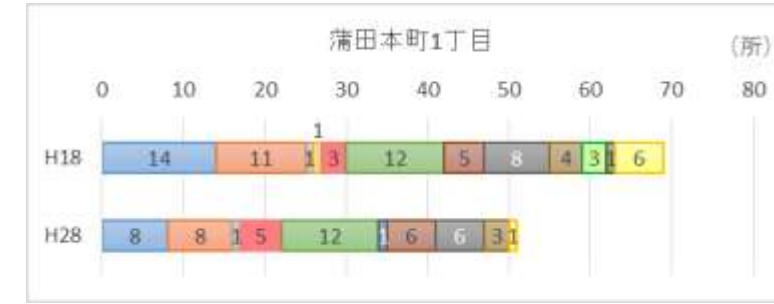
建設業が増加しそれに伴い事業者数も増加。運輸業と飲食店、宿泊業の事業者数が増加している。



全体的には事業所数が減少しているが、事業者数が増加している。とくに、建設業、情報通信、運輸業の事業者数の増加が目立つ。
アロマスクエアが立地し、多くの企業が入居している。



建設業が増加しそれに伴い事業者数も増加。医療、福祉の事業者数が大幅に減少。



全体的には事業所数が減少しているが、事業者数が増加している。とくに、運輸業、卸売・小売業の事業者数の増加が目立つ。



運輸業の事業者数が3,500%増と大幅に増加。事業の拡大が推測される。



GDエリア内で一番事業者数の減少が大きい(73%減)。



出典：平成18年 事業所・企業統計調査
平成21,26年 経済センサス基礎調査
平成28年 経済センサス活動調査

※H28 経済センサス活動調査では、公務(他に分類されないもの)の項目がないため、図示なし

2 (1) 商業・にぎわい・交流の創出

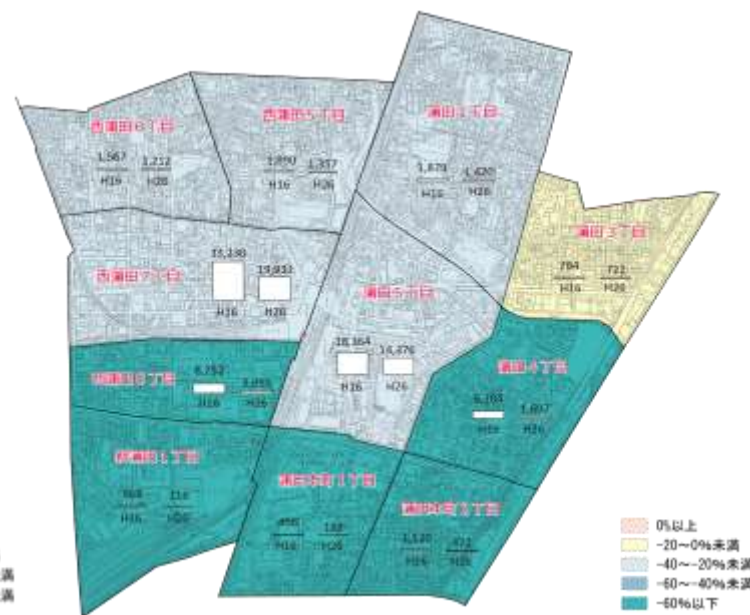
⑧小売業

- ・小売店舗の数や面積は減少傾向にある。
- ・一方で、小売店舗の年間販売額は増加傾向にあり、特に夜間人口（居住者）の増加が著しい蒲田4丁目や蒲田本町1丁目は年間販売額の増加も顕著である。

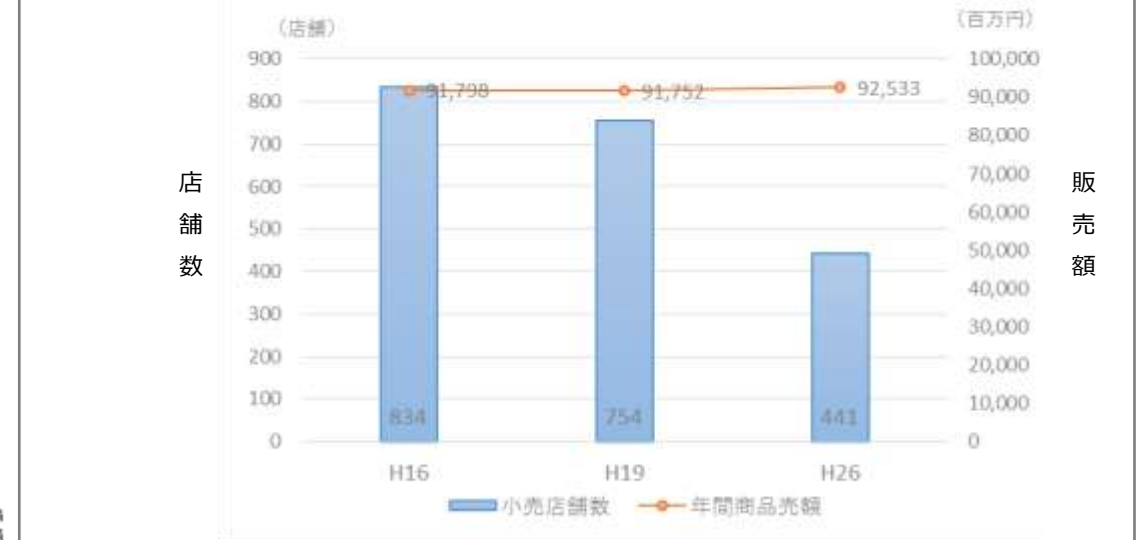
小売店舗数増減率（H16～H26）



小売店舗面積増減率（H16～H26）

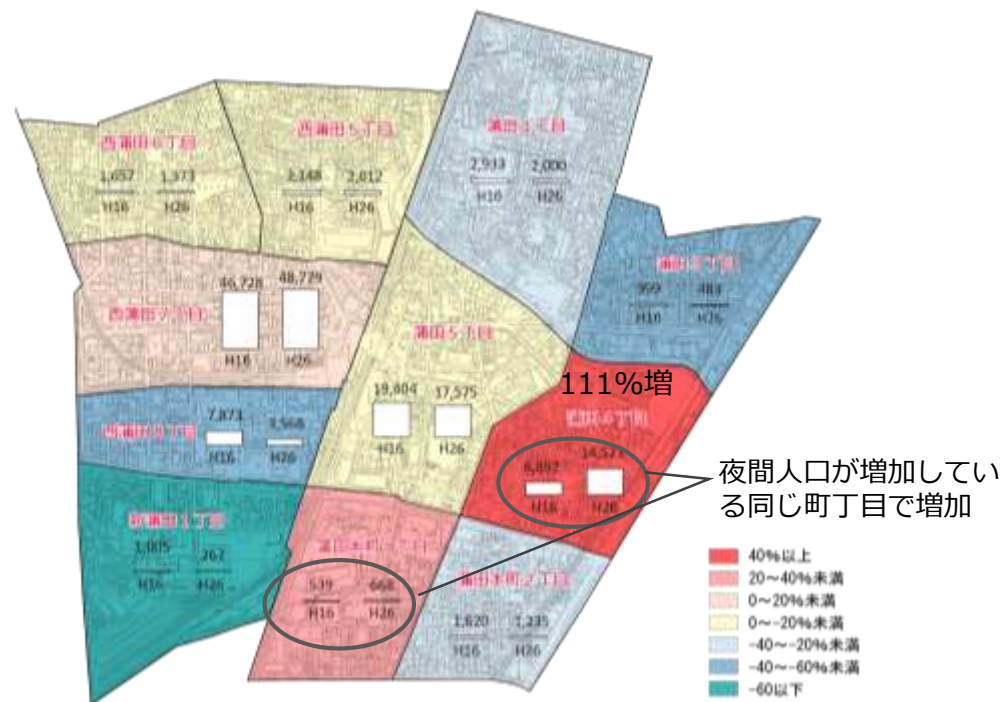


GDの対象範囲内小売店舗数と小売業年間販売金額



出典：経済センサス

年間販売額増減率（H16～H26）



GDの対象範囲内小売り業年間販売額

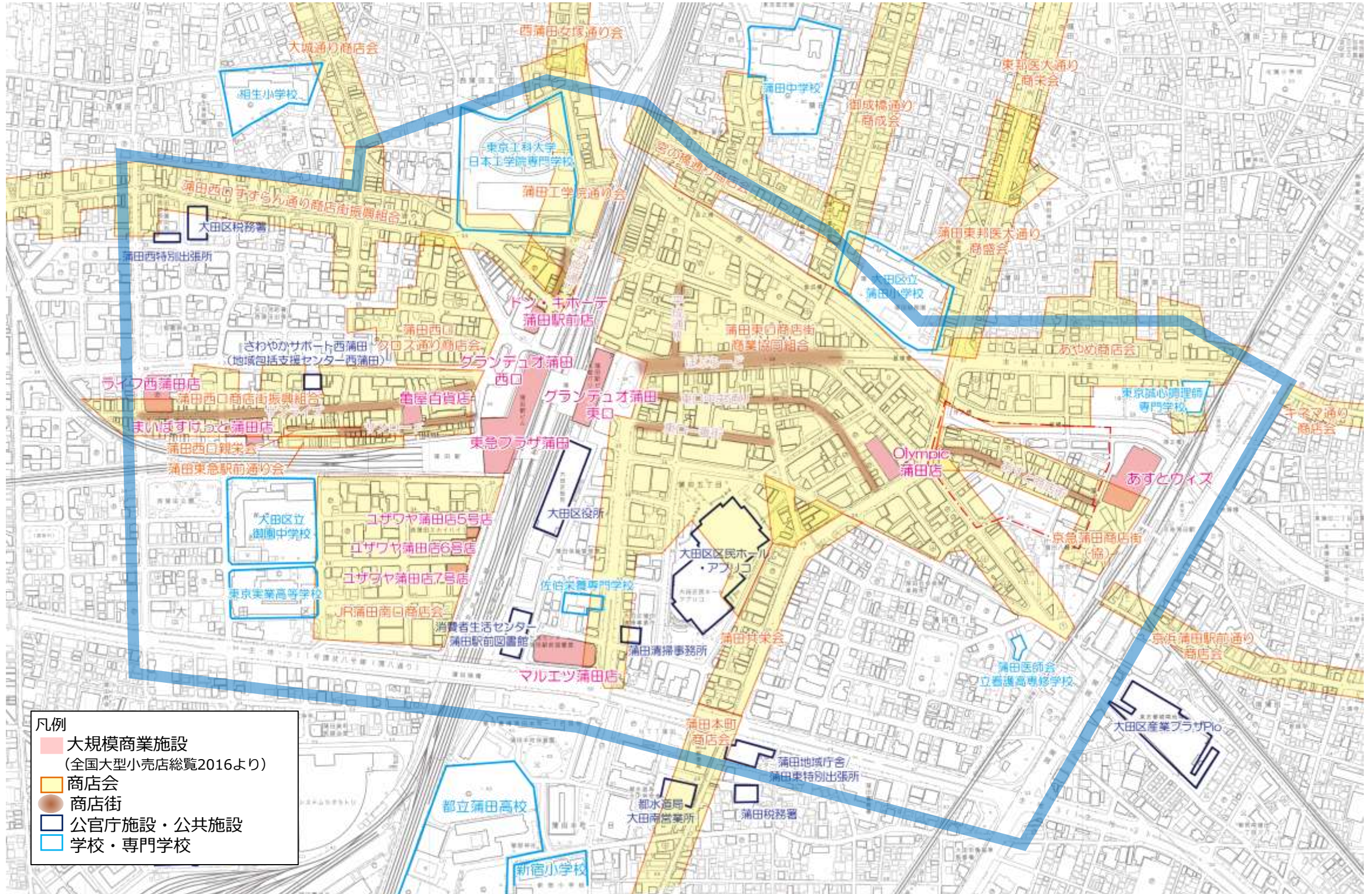


出典：経済センサス

2 (1) 商業・にぎわい・交流の創出

⑨ 蒲田駅周辺の商店会MAP

- ・ JR蒲田駅から、京急蒲田駅へと連続して商店会が存在している。
- ・ 西口はサンロード、サイライズ蒲田に賑わいがあり、東口はぼぱらーど通りと、京急蒲田駅へとつながる京急蒲田あすと商店街が、賑わいを見せている



出典：大田区商店会MAP 平成26年度

2 (1) 商業・にぎわい・交流の創出

⑩ 土地利用状況

・事務所や工場が減少し、集合住宅が増加している。



種別		面積(m ²)	構成比(%)
公共施設用地等	道路	528617.4049	42.1%
	鉄道	57947.59635	4.6%
	河川	26019.37157	2.1%
	公園・運動場等	17607.9478	1.4%
	小計	630192.3206	50.2%
公益的施設	官公庁施設	24836.28558	2.0%
	教育文化施設	54709.25385	4.4%
	厚生医療施設	4864.838211	0.4%
	供給処理施設	803.7575849	0.1%
	計	85214.13522	6.8%
専用住宅施設	独立住宅	54553.3842	4.3%
	集合住宅	125738.6673	10.0%
	計	180292.0515	14.4%
宅地	事務所建築物	78188.74759	6.2%
	専用商業施設	43761.45825	3.5%
	住商併用建物	80543.97054	6.4%
	宿泊・遊興施設	40000.57259	3.2%
	スポーツ・興行施設	1190.273661	0.1%
計	243685.0226	19.4%	
工業系施設	専用工場	2604.132074	0.2%
	住居併用工場	5116.048129	0.4%
	倉庫・運輸関係施設	25019.83019	2.0%
	計	32740.01039	2.6%
その他	屋外利用地・仮設建物	49004.16254	3.9%
	未利用地等	34136.1388	2.7%
	計	83140.30134	6.6%
小計	625071.5211	49.8%	
合計	1255263.842	100.0%	



出典：H18年土地利用現況調査



種別		面積(m ²)	構成比(%)
公共施設用地等	道路	537755.1973	42.4%
	鉄道	62071.38722	4.9%
	河川	26151.02346	2.1%
	公園・運動場等	20911.64108	1.6%
	小計	646889.2491	51.0%
公益的施設	官公庁施設	26391.38355	2.1%
	教育文化施設	64894.64016	5.1%
	厚生医療施設	3524.1093	0.3%
	供給処理施設	806.79757	0.1%
	計	95616.93058	7.5%
専用住宅施設	独立住宅	52696.94983	4.2%
	集合住宅	153137.1047	12.1%
	計	205834.0545	16.2%
宅地	事務所建築物	72696.5514	5.7%
	専用商業施設	42567.58376	3.4%
	住商併用建物	87056.77436	6.9%
	宿泊・遊興施設	32687.65123	2.6%
	スポーツ・興行施設	1188.71032	0.1%
計	236197.2711	18.6%	
工業系施設	専用工場	1518.02708	0.1%
	住居併用工場	3613.67393	0.3%
	倉庫・運輸関係施設	20389.22347	1.6%
	計	25520.92448	2.0%
その他	屋外利用地・仮設建物	41041.74965	3.2%
	未利用地等	17130.08274	1.4%
	計	58171.83239	4.6%
小計	621341.013	49.0%	
合計	※1268230.262	100.0%	



出典：H28年土地利用現況調査

※データ上は同じエリアを抽出していますが、建物や道路の図形変化等により、多少の誤差が生じます。(1%誤差あり)

凡例		
官公庁施設	宿泊・遊興施設	農林漁業施設
教育文化施設	スポーツ・興行施設	屋外利用地・仮設建物
厚生医療施設	独立住宅	その他
供給処理施設	集合住宅	公園・運動場等
事務所建築物	専用工場	未利用地等
専用商業施設	住居併用工場	道路
住商併用建物	倉庫・運輸関係施設	鉄道・港湾等

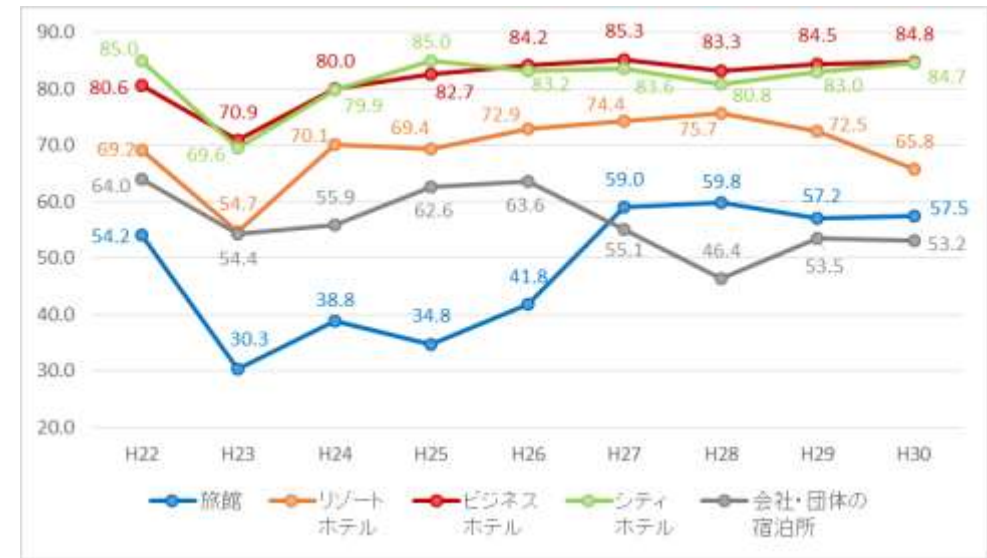
2 (1) 商業・にぎわい・交流の創出

⑪ 宿泊施設

- ・ 蒲田駅周辺には30以上のホテルが立地し、稼働率が高い。
- ・ 価格の安い地元型ホテルの老朽化による閉店が進み、変わって、チェーン型ホテルの進出が進んでいる。
- ・ 近年、環八通り（羽田空港近辺）にビジネスホテルが多く立地している。
- ・ 特区民泊（大田区国家戦略特別区域外国人滞在施設経営事業）も多く、蒲田に滞在する外国人が多く利用していると考えられる。



東京都のホテル稼働率（％）



出典：観光統計（観光庁）より作成

環八通り（羽田空港近辺）のホテル立地状況 青色：2014年以降に建設



大田区宿泊客の推移

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
延べ宿泊者数	1,108,390	1,000,415	1,174,239	1,079,790	1,252,249	1,484,426	1,495,768	1,515,845	2,610,567
実宿泊者数	824,029	736,384	904,101	858,150	994,886	1,221,340	1,191,117	1,293,246	1,594,747
外国人延べ宿泊者数	98,674	51,085	75,230	91,342	132,936	221,565	345,697	316,868	484,572
外国人比率（％）	8.9	5.1	6.4	8.5	10.6	14.9	23.1	20.9	18.6
外国人実宿泊者数	75,970	35,788	56,300	67,297	104,857	220,286	242,249	262,007	371,221
外国人比率（％）	9.2	4.9	6.2	7.8	10.5	18.0	20.3	20.3	23.3
客室稼働率	77.8	71.0	83.2	86.2	91.0	90.4	88.6	89.4	87.5

出典：観光統計（観光庁）より作成

2 (2) 都市機能の向上

①乗降客数

- ・全ての路線で乗降客数は年々増加している。
- ・前段に挙げた、夜間人口、従業員の増加や、教育施設の新設や拡大等が要因として考えられる。



出典：東京都統計年鑑

	蒲田駅	品川駅	大井町駅	大森駅	川崎駅	横浜駅
乗降客数 (平成29年)	458,308人	1,092,792人	433,187人	190,378人	545,262人	2,260,961人
乗入れ鉄道	JR 東急 京急	JR東日本 JR東海 京急	JR 東急 りんかい 高速鉄道	JR	JR 京急	JR・東急・ 京急・相鉄・ 横浜市営地下 横浜高速鉄道

【考えられる主な要因 (推測)】

- ・マンション開発による夜間人口の増加により、大田区内外への通勤・通学利用者の増加。
- ・日本工学院専門学校が平成22年に新キャンパスを開設し、平成28年には再整備も実施。その他にも新たに専門学校が立地するなど、蒲田駅を利用する通学者の増加。
- ・蒲田5丁目にはアロマスクエアが立地し、多くの企業が入居。従業者数が増加している。また、大手企業がある、新蒲田一丁目も事業者数が増加。そのため蒲田駅を利用する通勤者が増加。
- ・羽田空港利用者の増加による京急蒲田駅利用者の増加。

②羽田空港国際線旅客数の推移

- ・羽田空港国際線旅客数は増加している

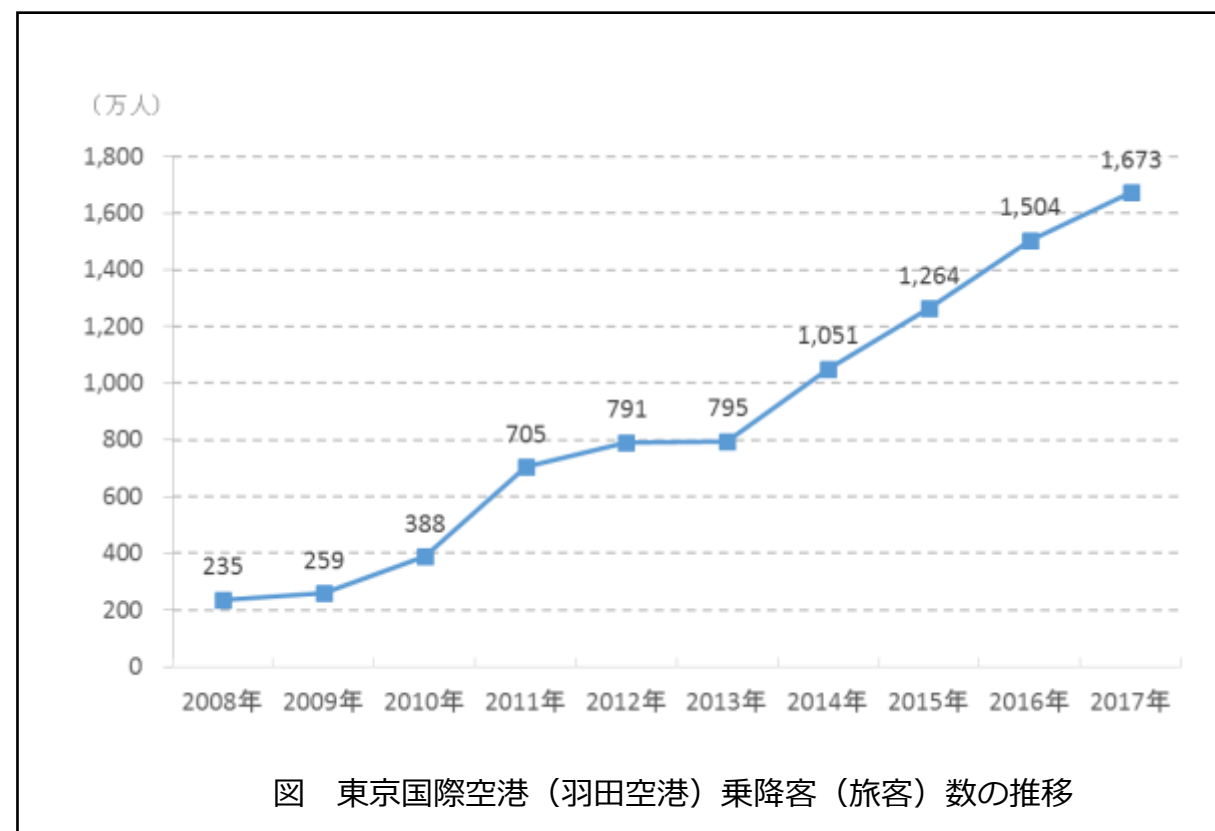


図 東京国際空港 (羽田空港) 乗降客 (旅客) 数の推移

出典：東京都統計年鑑

■羽田空港の国際化と都心アクセス向上に向けた取り組み

羽田空港	
国際化の動き	・2010年の国際線ターミナルビルの開業を契機に、国際空港としての機能を年々強化。
都心からのアクセス向上策	・京急線と東京モノレールの2本の鉄道ルートにより東京都心に直結し、30分程度で東京駅にアクセス可能。 ・新たな鉄道ルートとして、羽田空港アクセス線・新空港線・都心直結線の構想が発表されている。

京急蒲田駅、駅周辺基盤整備及び再開発事業以前

- ・京浜急行本線・空港線の京急蒲田駅付近は、多くの道路が鉄道と平面交差しており、慢性的な交通渋滞や事故、排気ガスによる環境悪化が問題になっていた。京浜急行線の踏切は“開かずの踏切”と言われ、交通渋滞の難所に。
- ・駅西口は雑居ビルが多く、生活道路は狭く、古い木造住宅も多い。線路で分断されていた。



第一京浜 H17.4撮影



京急蒲田(西口)付近 H17.6撮影

- ・平成24年 京浜急行本線、空港線連続立体交差事業の高架化 完了
⇒高架化に合わせて京急蒲田駅の機能を大幅に強化。ホームを2層構造にして延伸・拡幅することで、柔軟に分岐や追い抜きができるようにし、同一ホーム上で様々な乗り換えを可能にした。
⇒駅高架下に商業施設「ウィングキッチン京急蒲田」がオープン。
- ・平成27年 京急蒲田西口駅前地区第一種市街地再開発事業 完成
⇒駅西口に駅前広場とペDESTリアンデッキを整備。
⇒複合商業施設「あすとウィズ」がオープン。
- ・平成28年 京急蒲田駅東口駅前広場の整備 完成



写真:京浜急行電鉄HP



写真:京浜急行電鉄HP

京急蒲田駅、駅周辺基盤整備及び再開発事業以後

- ・踏切事故や交通渋滞の解消、さらには緊急車両などの移動円滑化による周辺地域の防災や救護活動など、多面的にわたって大きな効果がもたらされた。
- ・高架化されることによる、東西の分断解消、地域の融合が促進。
- ・ペDESTリアンデッキや駅前広場が供用され、安全安心なまちづくりの実現と、ゆとりと賑わいのある駅前空間が創出された。
- ・蒲田地域の玄関口にふさわしい駅前商業地としての賑わいと、駅前立地の利便性を活かした居住環境の創出がもたらされた。
- ・京急蒲田駅部を大規模改良したことにより、列車本数増加による羽田空港へのアクセス性や駅施設の利便性が大幅に向上。交通結節機能の強化が図られた。
- ・高架下を自転車駐車場や防災倉庫に有効活用。違法駐輪の減少、防災の強化に寄与した。

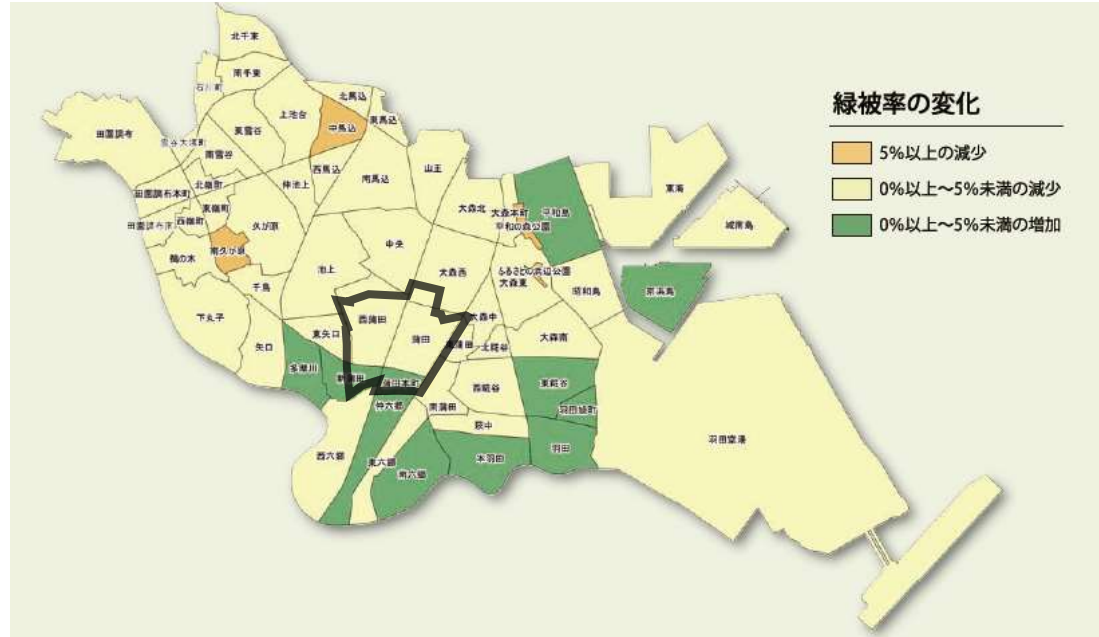
- ・高架化に合わせて、ダイヤを一部変更。都心と羽田空港を結ぶ全列車が停車していた同駅を、「エアポート快特」は通過駅とした。

2 (3) まちの快適性の確保

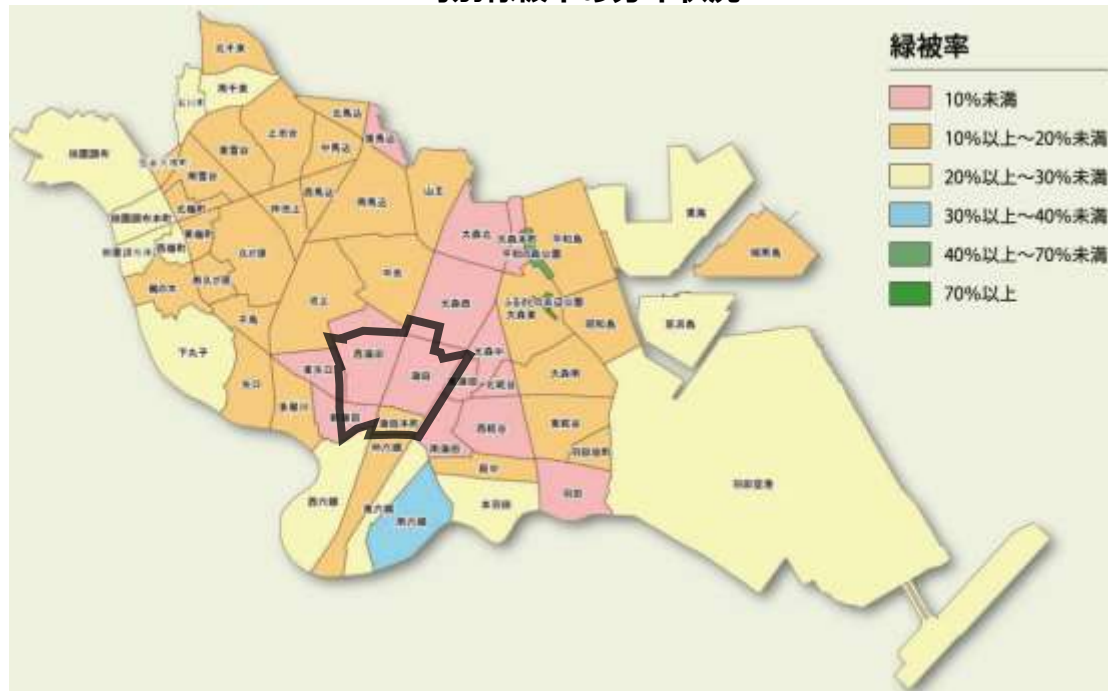
①みどりの量

平成21年度調査と平成30年度調査の緑被率の変化状況では、区内の多くの町で緑被率は減少。GDの対象範囲内も同様の傾向。

町別緑被率の変化状況（平成21年度→平成30年度）



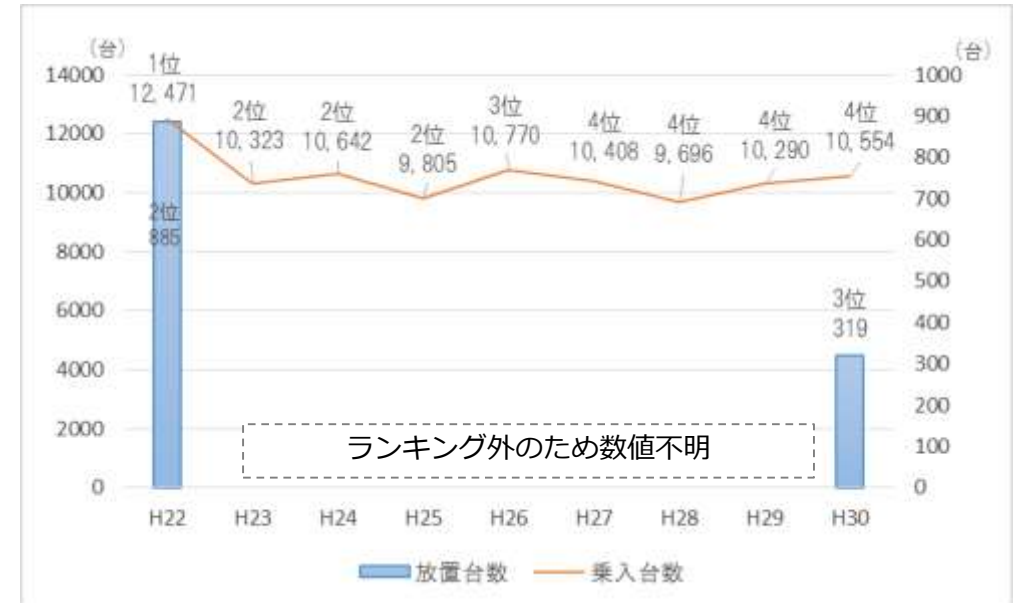
町別緑被率の分布状況



出典：平成30年度大田区みどりの実態調査

②放置自転車

放置自転車等の撤去活動や駐輪場への誘導などが促進され、放置自転車は大幅に減少。



※駅周辺（駅から概ね半径500m以内の区域）における自転車の乗入台数（放置台数と自転車等駐輪場の駐輪台数の合計）

出典：東京都放置自転車等の現況と対策 各年度調査より作成

2 (3) まちの快適性の確保

③犯罪件数

- ・ 駅周辺で自転車盗難が増加している。
- ・ 犯罪件数も多く、大田区全体のうち蒲田駅周辺である西蒲田7、8丁目、蒲田5丁目だけで約16%を占める。

年間自転車盗難増減率 (H21~H30)



平成30年 大田区犯罪件数

H30	総計	自転車盗	凶悪犯	粗暴犯	侵入窃盗	非侵入窃盗 (自転車盗含む)	その他
西蒲田5丁目	47	24	0	2	6	30	9
西蒲田6丁目	25	7	0	4	2	10	9
西蒲田7丁目	370	116	5	28	43	245	49
西蒲田8丁目	76	42	1	3	2	59	11
蒲田1丁目	42	25	0	1	3	29	9
蒲田3丁目	20	7	0	1	2	12	5
蒲田4丁目	95	47	0	10	3	65	17
蒲田5丁目	426	207	1	56	7	317	45
蒲田本町1丁目	25	18	0	0	1	20	4
蒲田本町2丁目	22	9	0	0	1	13	8
新蒲田1丁目	22	9	0	0	6	13	3
大田区計	5,335	2,146	23	357	253	3,589	1,113

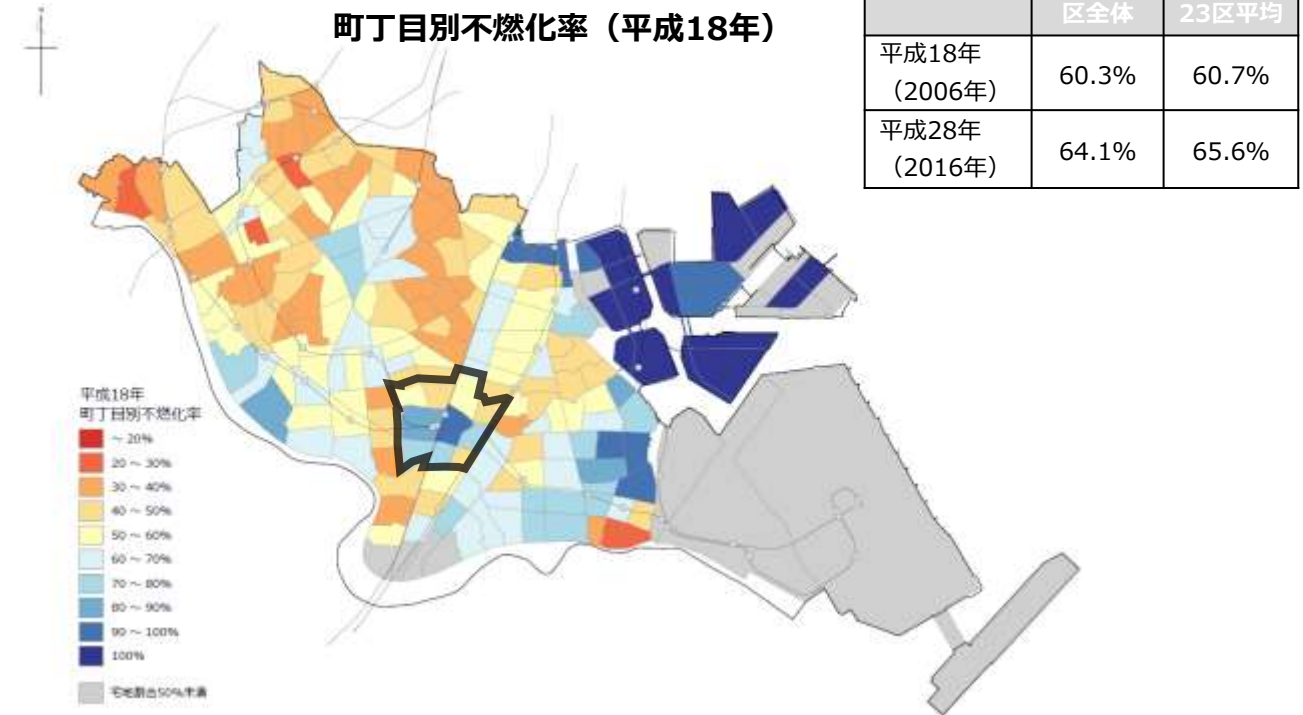
出典：警視庁HP 区市町村の町丁目別、罪種別及び手口別認知件数

※平成30年に大田区内で発生した自転車盗難件数は、2,146件であり、都内では2番目に多い発生件数となっている。

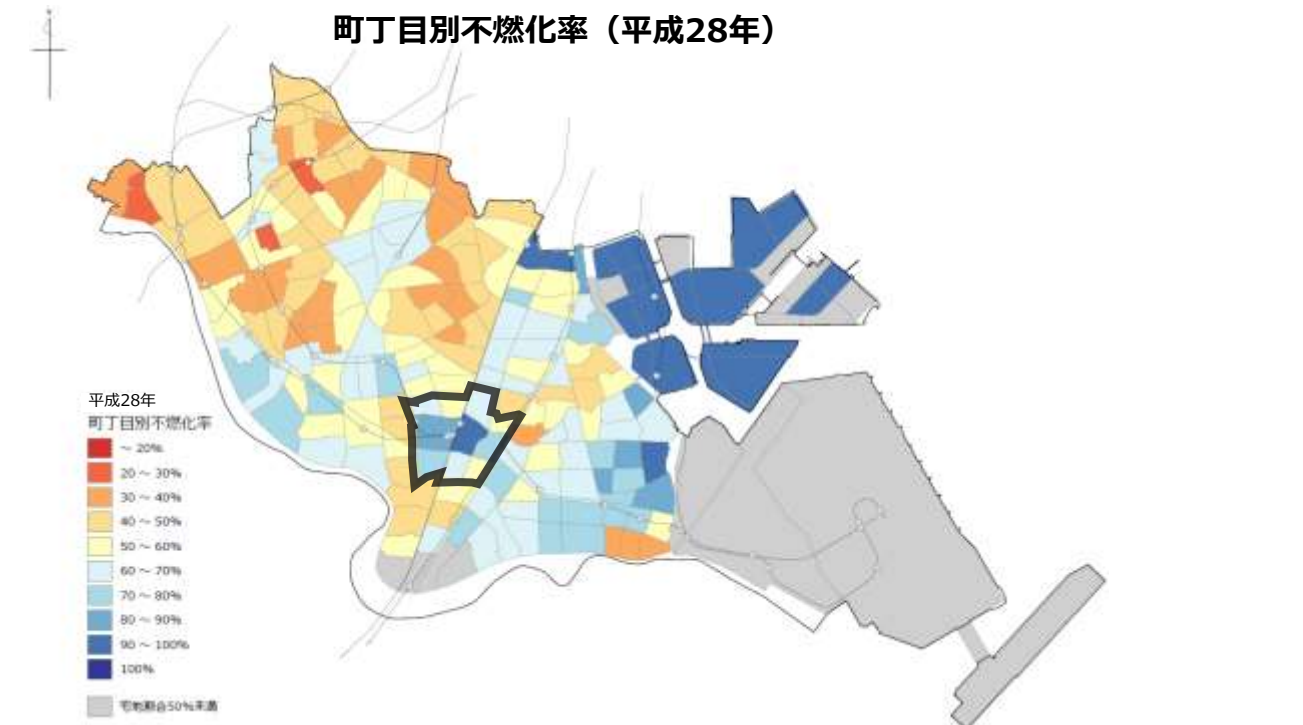
④不燃化率

- ・ 不燃化率は上昇している。

町丁目別不燃化率 (平成18年)



町丁目別不燃化率 (平成28年)



出典：H18、28年土地利用現況調査